

平成 29 年度気仙沼市防災フォーラム(第 22 回防災文化講演会)を開催しました (2018/01/24)

テーマ：防災教育、気仙沼市

場所：気仙沼市中央公民館（宮城県気仙沼市）

1月24日（水）、気仙沼市中央公民館を会場として、気仙沼市と同教育委員会主催、当研究所と気仙沼 ESD/RCE 推進委員会の共催、気仙沼市立小・中学校安全担当主幹教諭の皆様の企画・運営で「平成 29 年度気仙沼市防災フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、当研究所が気仙沼市内で 2 ヶ月に 1 回程度開催している防災文化講演会の第 22 回としての位置づけもあります。一昨年度前から同フォーラムを継続的に開催し、今回が 3 回目の開催となります。今回は、「市民みんなで考える防災」をテーマに、市内の中高生をはじめ学校関係者や自主防災組織等地域住民約 100 名参加により開催されました。

講演会は、中高生からの防災学習発表会 2 件、基調講演 2 件、ワークショップの 3 部構成で行われました。防災学習発表会では、気仙沼高校から 2 名の生徒が課題研究の成果を、階上中学校から 3 名の生徒と防災主任の先生が、今年度の防災学習活動の成果についてプレゼンテーションを行いました。両校とも当研究所の佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）がアドバイザーをつとめています。基調講演では、当研究所の日野亮太教授（災害理学研究部門、理学研究科）から「2011 年東北沖地震に伴って観測された地殻変動とその意味」、岡田真介助教（災害理学研究部門）から「内陸活断層による地震と防災ー仙台平野周辺の活断層ー」という演題で話題提供がありました。ワークショップでは、「震災を風化させない私たちの取組」をテーマに、参加者がグループに分かれて議論を行い、その結果について発表が行われました。防災学習発表会とワークショップについては、その発表の後に、佐藤翔輔准教授が講評・コメントを行いました。ワークショップは、今年度はじめての取組みでしたが、大変活発に議論が行われ、盛会となりました。



日野亮太教授（基調講演）



岡田真介助教（基調講演）



ワークショップの様子



佐藤翔輔准教授（講評）